

□議員名：伊場 勇

1 創業支援について

論点	創業支援で期待できる効果は何か。
回答	第1に、にぎわいの創出と考えており、また創業希望者を支援し、新たな事業所が増えることにより、税収の増加、雇用の創出、新事業の創出などの効果が期待できる。

論点	起業家支援資金融資制度の活用状況はどうか。
回答	平成30年度が6件、それ以降も毎年3件ずつ活用されているが、起業への醸成にまでは至っていない。

論点	本市にビジネスインキュベーション施設が必要ではないか。
回答	現在のところビジネスインキュベーション施設の設置を検討していないが、市商工センター用地を中心に進めているLABVプロジェクトの計画の中で、LABV共同事業体から、インキュベーション施設の提案もあり、設置するという事になれば、市としても関係者と協議を進めていきたい。

論点	ソーシャルビジネス（コミュニティービジネス）の必要性をどのように捉えて、創業支援を行っていくのか。
回答	協創によるまちづくりに合致する取組ではないかと思っている。まずは県の取組を注視しながら、本市の創業支援の一つのツールとして、山陽小野田市創業支援事業計画の次期計画に盛り込み、まちの持続化を図っていきたいと考える。

論点	本市の特性を生かした独自性の高い施策を展開する予定はあるのか。
回答	集客力の高い大型ショッピングセンターでのチャレンジショップ事業は、創業を目指す方が集まる環境を整え、にぎわいの創出につながるものと大いに期待している。また、市の起業家支援資金融資制度では女性起業家、学生起業家などへの利率の優遇を行っている。

	また、LABVプロジェクトの計画には、山口東京理科大学と連携した新産業創出の企業を支援する取組も提案している。
--	---

論点	2年前の一般質問で取り上げたIT企業に特化した誘致、起業支援について、「調査研究していく」との答弁であったが、その後どうか。
回答	まだ調査が十分できていない。少し考えはあるが研究していく。

2 児童クラブの待機児童について

論点	令和4年度の児童クラブの待機児童数の見込みを踏まえ、今後の動向をどのように把握し、体制整備をしていくのか。
回答	令和4年度は小野田小11名、高千帆小52名、厚狭小26名の計89名の待機が出る予定であり、現在の計画とは乖離が生じているので令和4年度に計画の見直しを予定している。また市としては全学年受け入れたい思いはあるが、現状は地域によって受け入れ可能な学年が異なっている。

論点	高千帆小学校は令和5年度に新しい校舎が完成し児童クラブ室が増えるが、令和4年度の児童クラブの52名の待機児童への対応はどうするのか。
回答	高千帆中学校西校舎の空き教室の使用は可能だが、駐車スペースが少なく、安全確保が課題であり、また支援員の確保も必要となるが、鋭意検討していく。

論点	市内の待機児童解消に向けての早急な対応はできるのか。
回答	場所、支援員、財源がそろふ必要があり早急な解消は難しいが、鋭意検討していく。また児童クラブは子供の健全な育成を図るものであり、子供ファーストで考える上で、市長部局、教育委員会部局のみならず市全体として対応していきたい。